



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

循環型社会
をめざして

生ゴミの堆肥化を家庭まかせにしないで 廃棄物減量等推進審議会で検討を求め

10月6日、廃棄物減量等推進審議会が開かれました。

担当課から、新たな制度などを受けて見直された「市一般廃棄物処理基本計画」が示されたほか、現在、処理施設については「単独か広域化か」、「施設の延命化」など、他市のデータも含め検討していることなどが報告されました。

鈴木やす子委員は、「今回



女性消防団

北茨城市消防団女性分団の発足式が10月4日、市サッカー・ラグビー場で開催されました。団員一人ひとりに辞令書が手渡され、規律訓練などがおこなわれました。

協同保健
視察報告

「日本一健康なまち」新潟県 見附市

10月7、8日、国民健康保険運営協議会が新潟県見附市の国保と健康づくりの取り組みを視察しました。同委員として参加した鈴木やす子議員の報告です。

見附市では、国保税の収納率が96%を上回っています(北茨城市では87%)。また資格証明書や短期保険証

国保の収納率などの比較 (08.4.1)

	見附市	北茨城市
人口(人)	4万3079	4万9979
資格証明書(世帯)	15	268
短期保険証(世帯)	188	794
収納率(%)	96.27	87.10

の発行も、本市と比べて、少なくなっています。口座振替の割合が高いことが説明されましたが、同時に、納付への喚起を早めにおこない、少額でもいいので分納誓約書の取り付けに務めているとのこと。軽減世帯の割合が高いことからみても、ていねいな行政の対応がうかがえます。また同市では、日本一健康なまちをめざすとのスローガンをかけています。大きな柱になっているのが、筑波大学の研究室とのタイアップで取り組まれている中高齢者対象の健康運動教室です。数年の継続によって、医療費削減など明らかな成果があるので、いっそう広げていきたいと意欲的でした。さらに「福祉と医療の里」構想のもと、福祉の充実のために診療機関が必要との認識があり、隣市に大きな病院があっても医療過疎だった当市に市立病院を16年前に開院しました。

現在は医師6人で99床の規模です。整形外科常勤医の欠員できびしい状況ですが、この8月には「総合内科」を望んで医師の赴任があり、地域に密着した医療

サービス提供で病院の役割をはたそうとしています。市の姿勢に、人の暮らしを総体で見て、その中で健康維持を捉えている視点を感じました。職員の説明に

今年プロ野球界で大物の引退が相次いだ。まずは「世界のホームラン王」こと王監督。選手時代は長島と並び巨人9連覇の立役者となった。ハンク・アーロンのホームラン記録を破る756号の相手投手が地元・磯高出身の鈴木康二郎投手であることは有名である。引退後は巨人の監督に就任したが一度も日本一には輝けず、追われるように巨人を退団し、パリーグの万年Bクラスのダイエーの監督として九州の地にやってきた。連敗が続ぎ生タマゴをぶつけられる事件も起きたが、14年間指揮をとり常勝チームに育て上げた。王監督の引退を知った時のイチローの談話が振るっている。「世界に偉大な記録をつくった人は数多くいるが、偉大な人間は少ない」と最大の賛辞を送った。私が一番印象に残っているのは野茂投手が大リーグ入りを熱望した時、日本の球界や国民も「日本のプロ野球がダメになる」と否定的な声が多かった。私はこの「島国根性」が嫌いで、大リーグで活躍することが日本球界全体の裾野を広げ、発展にもつながると考えていたが、その意見はごく稀であった。

王、清原、桑田の引退 福田 明

そんな雰囲気の中、王監督は「これからの人は可能性を信じて、大リーグに挑戦してほしい」とエールを送った。その懐の深さと度量の大きさに感銘したことが今でも忘れられない。その野茂投手も今年、静かに大リーグのマウンドを去っていった。また、KKコンビこと桑田・清原の二人も共に引退した。PL学園時代は一年と三年の夏に全国制覇。二年の夏の決勝は木内監督が率いる取手二高に破れ準優勝。「二年坊なんかには負けてたまつか」との木内監督が印象深い。卒業後、桑田は巨人、清原は西武に入団して大活躍した。後半は二人ともケガに泣かれ続けたが、執念で復活しファンに感動を与えた。清原のラストゲームには、シーズンを終えたばかりのイチローが帰国、連続出場世界記録の鉄人・金本、そして盟友・桑田の姿があった。清原の引退あいさつを聞きながら、巨人を解雇された清原に「大阪に帰って来い。お前の花道は俺がつくつてやる」との故・仰木監督の言葉が甦る。そして実に立派な花道であった。昨今、人情が薄れたと言われるが、まだまだ浪花節は健在である。

「国保運営や医療費削減の数字を先に追うのではなく、まず福祉の観点からみなくてはと思う。そして運動にも『楽しさが必要』との言葉が印象的でした。